



金澤北ロータークラブ



金沢城公園 出初式
写真提供 高島聡会員

『今だからこそ問う、ロータリーとは何か』

金沢北ロータリークラブ卓話（1）

R I第2680地区パストガバナー 深川 純一 氏

今日は、『今だからこそ問う、ロータリーとは何か』というテーマをいただいております。これは大変大きなテーマであります。そこで、どのような切り口でお話ししようかと考えたのでありますが、先ず、今だからこそ問う、というこの言葉には、過ぎ去った20世紀初頭のあの素晴らしいロータリーと現在のロータリーの現状とは違うのではないかと、そして、今のロータリーはこれでよいのか、ロータリーは今、大切なものを失ってしまったのではないかと、という問いかけがあると思うのであります。

それに答えるためには、先ず昔のロータリーを顧みる必要があります。

1850年に生まれ、1906年、ロータリーが創立された翌年、突如としてこの世を去った19世紀のイギリス法史学界の権威ウィリアム・メイトランド教授は、「我々が歴史を学ぶのは、単に過去を追憶するためではない。過去を学ぶことによって初めて現在を正しく認識することが出来る。現在を正しく認識することによって初めて未来を正しく展望することが出来る。したがって、歴史を学ばない者には、現在及び未来を語る資格がない」と断言しているのであります。したがって、この視点からロータリーを顧みますと何を学ぶことが出来るのでしょうか。

先ず、私達は、ロータリーの歴史を学ぶことによって、ロータリーを正しく認識し、そのことによって初めて未来のロータリーを正しく展望することが出来るのであります。

そこで、先ず、ここ僅か100年余りのロータリー運動の軌跡を振り返って見ますと、ロータリーが創立されてからの最初の20数年間、20世紀初頭のロータリー運動は、誠に素晴らしいものであります。

今、そのロータリーの運動の軌跡を辿ってみますと、1905年2月23日、ポール・ハリスの仲間4人で集まった最初の会合で、ポール・ハリスの提案によって「一業種一会員制」の原則が採択されました。

これは、資本主義経済社会は自由競争社会であります。したがって、クラブの会員達は同業者との関係では、正に「食うか食われるかの関係」に立たされますから、競争相手がいるために或る種の危機感を持ちます。したがって、自分が潰れる前に彼が潰れてほしいという訳の判らない感情の虜にもなります。

また、同業者は同じ業界にいますから、お互いに、悪いところも、醜いところも、汚いところも知り尽くしています。したがって、彼は俺の欠点を知っているなという意識がありますから、お互いに心を開くことができません。このように致しまして、クラブの中でお互いに仲良くすることが出来ません。即ち、クラブ親睦が醸成されないのでは

あります。そこで、ポール・ハリスは、同業者を排除して、一つの職種から一人だけ会員を選ぶ一業一会員制の原則を採用したのであります。したがって、この原則は、クラブ親睦を守るためにポール・ハリス自身が提案したロータリーの基本原則なのであります。

そして、その1ヶ月後の3月23日には、会員9人が集まってシカゴクラブの創立総会が開催されました。ここでは、会員は、4回連続して例会を欠席すると自動的に会員資格を失うという「規則的例会出席」の原則を採択しました。これは、当時のロータリアンは皆零細企業の経営者ばかりでありますから、お互いに厳しい経済状況の中で助け合っていくためには、皆仲間だから必ず例会には出てこいよ、ということでもあります。しかも、当時のクラブ例会は、2週間に一回でありましたから、4回連続して欠席すると2ヶ月もクラブに出てこないことになります。したがって、そんなに長い間、欠席して、お互いの安否も気遣わない、助け合いもしない、そんな冷たい奴は俺たちの仲間ではない、辞めて貰おうというのがこの原則を立てた彼らの心でありました。したがって、これもクラブ親睦を守るためにシカゴクラブが採択したロータリーという組織上の基本原則でありました。このようにして、まず、ロータリーの基本的組織原理を確立しました。

そして、それから10年後の1915年、にサンフランシスコの国際大会において、ロータリーは「全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓」別名「ロータリー道徳律」を採択してロータリアンの個人倫理を確立しました。

更に7年後の1922年、ロータリーはロサンゼルスでの国際大会において「国際ロータリー定款・細則及び標準ロータリークラブ定款」を採択してロータリーの組織原理を確立しました。

そして、その翌年の1923年、ロータリーはセントルイスの国際大会において「決議23-34条」を採択してロータリーの実践原理を確立しました。

更にその4年後の1927年、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕という四大奉仕部門を確立して原理探求のロータリーから実践の世界へ発展して行ったのであります。

このようにして、1905年に始まったあの二十世紀初頭の約25年間のロータリー運動は誠に素晴らしいものであります。当時のロータリアン達は、高々と理想をかかげ、その理想に燃えて行動した正に熱く燃えた誠に素晴らしいロータリー運動を展開したのであります。

しかし、今はどうでしょうか。ロータリーは随分変わってしまったと思います。また、時が経つにつれて何時しかロータリーが失ってしまったものもあります。

先ず、それらのことを検証して見て、初めて『今だからこそ問う、ロータリーとは何か』というテーマに答えることが出来ると思うのであります。

そこで、先ず、ロータリー創立当初からクラブの中に一つの伝統的な考え方がありました。それは一体何かと言いますと、企業経営上の「発想の交換」「アイデアの交換」という考え方です。これがロータリーがその規模を世界的に拡大していく過程で失ってしまったものの一つなのであります。

このロータリーが失ってしまったものを思い出すためには、先程、1905年に採択されたロータリーの組織上の大原則、即ち、一業一会員制の原則の出た背景に立ち返って検討する必要があります。

何故、ロータリーが一業一会員制の原則を採択したのか、と謂いますと、先程申し上げましたように、同業者がいるとクラブ親睦が保てないからであります。クラブ会員と同業者との関係は、食うか食われるかの関係であり、競争相手がいるために或る種の危機感を持ちます。したがって、自分が潰れる前に彼が潰れてほしいという訳の判らない感情の虜にもなります。

更に人間は、自分だけは先ず栄えておかなければ、いつ潰されるかも知れないと思いますから、人のことなど考えている暇はない、即ち倫理のことなど考えている暇はないと言って、自分だけ隆々と栄えていこうとします。そのために失敗する例が沢山あるのであります。一つの事例を出しておきます。

或る下請業者が親会社から自分の生産能力を越える沢山の注文を受けました。下請業者は喜んで、銀行から融資を受け、第二工場、第三工場と設備投資を致します。ところが、この設備投資がある程度大きくなった時点で、親会社は注文を止めます。下請業者は、受注の減少によって融資の返済に困り、親会社に泣きつきます。親会社は、それでは金を貸そうと言って、資本参加をして、結局、下請業者を乗っ取ってしまうのであります。

これは、企業が比較的短期間に大資本に成長していく過程でよく見られる誠に恨みつらみのある物語であります。皆さんこの事例をどう考えますか。一般社会の常識からすれば、それは、親会社が悪いというでしょう。

しかし、ロータリーの考え方はそうではありません。下請業者が自分一人で儲けようとしたところに問題があるのであります。まさに一般社会とは逆転の発想であります。

自分の生産能力を越える注文が来たときに、同業者もいることですから、これ以上の御注文は同業者の方へどうぞ、と言っておればよかったのであります。

しかし、そう言うものの企業経営者たるものは、自分の企業を安泰にさせたいために、注文が来れば儲けたくありません。このところが大変難しいのであります。

これに反して、例えば、或る有名な菓子屋では、いつも午後3時頃になると、商品が売切れます。有名な店だから

作れば作るほど幾らでも売れるのであります。午後3時頃になると売切れてしまう、その程度の商品しか作らないのであります。それは一体何故か？

確かに、作れば作るほどいくらかでも売れます。儲けに儲けることは出来ます。しかし、自分の生産能力を越えて、150% 200%の商品を作れば、儲かるかも知れませんが、粗悪品の出る可能性も出て来ます。一つでも粗悪品が出ると、お客様に御迷惑をかけることになります。

更に、自分の信用を傷つけることにもなります。信用というものは、金銭をもってしては計り知れないほど価値のあるものであり、一旦失ったら取り返しの付かないものなのであります。したがって、精魂込めて自分の生産能力の80%の商品しか作らないのであります。これが職業の倫理であります。そして、自分の生産能力を越える注文に対しては同業者の方へ譲るのであります。これが同業共存共栄の倫理であります。

このように、古来、人間が徒らに金を求めて身を滅ぼした例は枚挙に暇がありません。しかし、人間が心を求めて身を滅ぼしたことは、未だその例を聞かないのであります。

次年度 理事・役員名簿

〈2008.7 ~ 2009.6〉

会 長 (理事)	磯野 洋明
会長エレクト (理事)	安宅 雅夫
副 会 長 (理事)	畠 善昭
幹 事	中村 實博
副 幹 事 (理事)	汐井 俊彦
会 計	中田 龍一
直前会長 (理事)	小間井宏尚
(新世代会議)	
社会奉仕 (理事)	上田 忠信
環境保全 (理事)	横井 清治
地域開発 (理事)	本岡三千郎
国際奉仕 (理事)	吉井 清
ロータリー財団 (理事)	濱井 弘利
米山記念奨学会 (理事)	澤田 光夫
職業奉仕 (理事)	渡邊 聰
クラブ奉仕 (理事)	大村 精二
例 会 (理事)	中村 芳明
会 員 選 考 (理事)	松本 範夫
企 画 (理事)	滝川 真人
広 報 (理事)	川面 正雄
修 練 (理事)	長谷川 望人
親 睦 (理事)	小川 克己
友 好 (理事)	勝田 浩之

第1651回例会

1月17日(木) 雪 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

年男・今年の抱負
安宅雅夫君、横井清治君

2. 出欠

出席41名 欠席21名
出席率66.13% ビジター1名

3. 来訪者(敬称略)

金沢南RC 町 寿

4. 幹事報告

・京都洛北、相模原南RCより新年に当たり祝電拝受
・例会終了後、理事会開催

5. 皆出席顕彰(敬称略)

31カ年 上田忠信
25カ年 滝 憲三
19カ年 松田忠秋、松本範夫
10カ年 勝田浩之
9カ年 木村功一

6. お誕生日祝い(敬称略)

6日 坪田良三
12日 小泉幸雄
14日 吉井 清
25日 内堀 茂
27日 磯野進吾
28日 水巻啓光

7. ご結婚記念日祝い(敬称略)

16日 小泉幸雄
18日 本多弘夫

ニコニコボックス

小間井君、中田(龍)君、
新年、明けましておめでとうございます。
上田君 31カ年皆出席顕彰を受けて。皆さんのお陰で
長いようで、短く、楽しかったです。
滝君 お陰様で25カ年皆出席顕彰を頂き、有難うござ
いました。
松本君 19カ年皆出席顕彰を頂き、有難うございます。
小川君 年末の年忘れ会で二つも抽選が当たり、有難う
ございました。お陰様で、いい年越しとお正月
を過ごす事ができました。
吉井君 誕生日祝いの花束を頂き、有難うございました。
本岡君 「ロータリーの友」表紙、裏ページに我々セム
ムの関連会社の広告が載りましたので。

合計16,000円

★会員作品展に出品された作家先生方より、303,000円
の多額の寄付をニコボックスに頂きました。有難うござ
いました。(累計759,000円)

第1652回例会

1月24日(木) 雪 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

年男・今年の抱負
越田和好君、大澤久廣君、山上公介君

2. 出欠

出席38名 欠席24名
出席率61.29% ビジター9名

3. 来訪者(敬称略)

白山石川RC 酒井克己 多田 茂
金 沢RC 河野良三
金沢東RC 二木克明
金沢西RC 澤田幸壮 荒川勝治
金沢南RC 水野義男 三野 裕
香林坊RC 木下弘治

4. 幹事報告

・白山石川RCより、IM(都市連合会)のご挨拶
・例会終了後、次年度理事会開催

ニコニコボックス

白山石川RC 酒井克己君、多田茂君
本日は、お世話になります。

小間井君、中田(龍)君

白山石川RCより、IMのご挨拶を有難うござ
います。一名でも多くの出席を募りたいと思
います。また、本日は年男の方々、今年の抱負を
よろしく願っています。

松田君 先週は、19カ年皆出席顕彰を頂きました。

勝田君 10カ年皆出席顕彰、有難うございます。今年
も、よろしく願い致します。

合計8,000円(累計767,000円)

理 事 会 報 告

1月17日(木) 出席者16名

◆ 審議事項

- ① 半期決算報告
- ② 年忘れ会決算報告
- ③ 百万石RC創立10周年記念例会の件
4月19日(土) 18:30 ホテル日航金沢
※4月17日(木)の当クラブの例会を上記に振替る。
- ④ 退会会員の件
飯田安彦君(一身上の都合により、12月末付)
- ⑤ その他

◆ 委員会報告

- ・友好委員会
4月10日(木) 18:30 松魚亭にて
京都洛北RC来沢にて合同夜間例会
入船亭扇治師匠をゲストとしてお迎えする(予定)
- ・その他
理事会の議件は、開催日より一週間前までには幹事
に連絡する

講 話 予 定

2月14日(木)

ミニコンサート 谷内直樹氏

2月21日(木)

中山セントラル歯科 中川茂樹氏

2月28日(木)

夜間例会 入船亭扇治氏



会 長：小間井宏尚
会長エレクト：磯野 洋明
副 会 長：安宅 雅夫
幹 事：中田 龍一
副 幹 事：中村 實博

S A A：本多 弘夫
会 計：松田 忠秋
広報委員長：的場 晴次
会 員 数：63名
クラブ設立：昭和48年10月3日

例 会 日：木曜日 12:30~13:30
例 会 場：松魚亭 金沢市東山1-38-30
TEL<076>252-2271 FAX252-2273
事 務 局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所内
TEL<076>222-2525 FAX224-2882
E-mail:k-kitarc@aqu.hokuriku.ne.jp